
カイロ

結城陸空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カイロ

【Nコード】

N4654A

【作者名】

結城陸空

【あらすじ】

わたしとあなたの付き合いはじめてのちよつとした恋心の話

(前書き)

初作品です。下手ですが、よろしくお願いします。

人通りはさほど多くない街角で凍てつくような寒空の中、わたしはあなたを待っていた。わたしがあなたと付き合いはじめたのは、ちょうど1ヶ月前。あなたがわたしに告白してくれて、わたしはそれほど好きじゃなかったけど、この人なら好きになれると思って付き合うことにした。

1ヶ月後、わたしはほんとうにあなたのことを好きになった。あなたの優しくて無邪気な笑顔がたまらなく好き。わたしは人と付き合うのはあなたで3人目、あなたはわたしがはじめての彼女だと言った。

だから…？それともただ奥手なだけ…？あなたはわたしの手を繋ごうともしない。付き合って1ヶ月、わたしはこんなにあなたを好きになったのに…。

女のわたしから行動を起こすのはなにか…嫌だけど、行動しなければあなたはずっと手を繋いでくれる気がしない。だから今日、勇気を出してわたしはあなたと手を繋ごうと思う。

「ごめん！待った？」

あなたはいつもの無邪気な笑顔で現れた。

「ううん、大丈夫だよ」

わたしは自分の覚悟を悟られまいと出来る限り平常心で答えた。

「今日も風が強くて、寒いね」

あなたはまたいつもの無邪気な笑顔でわたしに話かける。

一瞬、身体が飛ばされそうなくらい強い風が吹き荒れた。わたしは思わず自分の息で手を温めようと手を顔に近づけようとしたが、それは出来なかった。

あなたのそれほど大きくはない温かな手がわたしの手をぎゅっと力強く包み込んだからだ。あなたは無言のままわたしとあなたの手をあなたの上着のポケットのなかに入れた。中にはカイロがあつてと

でも暖かった。

「これで少しは温かいだろ？」

いつもの無邪気な笑顔ではなく、少し照れ気味の顔であなたは言った。

「うん」

わたしは軽くうなずいた。いや、うなずくことしか出来なかったのだ。手も繋いでくれないあなたの変わりに、手を繋ぐ覚悟をしていたわたしを前に、あなたの突然の行動はわたしの思考回路を完全に停止させてしまったのだ。

けど…、あなたは気が付いていないんだろうね。わたしが暖かくなったのはあなたのポケットの中にあったカイロのおかげじゃないことに。あなたがわたしの手を力強く握りしめてくれた、その勇気と言う名前のカイロにわたしの全身は暖められたのだ。

わたしがあなたをさらに好きになったその瞬間だった。

（後書き）

読んで頂いてありがとうございます。僕自身は男なのですが、あえて女性の視点で書かせて頂きました。女心はこうなんじゃないかな？ と思い書いた作品です。

こんなじゃないよと思われるかもしれませんがあまり気にせず見守ってやってください。ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4654a/>

カイロ

2010年10月16日22時13分発行